

第1回 青少年問題協議会（会議要旨）

日時	令和8年5月28日（木） 14:00～15:30
場所	羽島市役所 301会議室
参加者	【委員：14名】 市長、市議会議員代表、自治委員会代表、竹鼻交番所長、教育長職務代理者、小中校長会代表、コミュニティセンター館長会代表、保護司会代表、子ども会育成協議会代表、PTA連合会代表、青少年育成推進指導員、民生児童委員代表、市健幸福祉部子育て・健幸担当部長、市産業振興部長 【事務局：9名】 教育長、事務局長、学校教育課長兼教育支援センター所長、所長補佐、支援係長、少年係長、いじめ対策・学校支援専門員、教育相談・学校支援専門員、地域連携コーディネーター
内容	令和7年度の青少年問題の状況報告（事務局） 管内の少年非行の状況について（岐阜羽島警察署 生活安全課長） 意見交流
司会	事務局（教育支援センター所長）
1 挨拶 （市長）	不登校の児童生徒数が久しぶりに減少したと聞いている。羽島市において、3つのサポートルームを運用したり、スクールソーシャルワーカーを1名増員したりすることで、それぞれの実態に応じた支援をすることができているなど、一定の成果をあげている。 羽島市は、県下に先駆けて、自転車安全運転のためのヘルメット着用推進条例を設けている。小中学校は100%の着用率を目指しているが、高校生になると着用率は激減している。 また、地域コミュニティの低下を心配している。 大切な時代を担う青少年の育成に関して活発な意見交流ができる会としたい。
2 議事①	＜議事1＞ 令和7年度の青少年問題の状況報告 ・教育支援センターの活動状況報告 ・学校における問題行動・不登校・交通事故状況報告
3 議事②	＜議事2＞管内の少年非行の状況について ・令和7年度の刑法犯・特別法犯、補導について 管内の少年非行の特徴として、万引きの件数が多かったこと。高額なものではなく、少額のもの（お菓子やジュース等）が多い。これぐらいならという軽い気持ちでやっているように思われる。万引きは窃盗罪にあたる。 喫煙で補導する事案が多い。喫煙は、非行の入り口になる認識をもってほしい。
4 議事③	＜議事3＞『規範意識を高めるために、家庭・学校・地域ができること』について意見交流 ・問題行動に関しては、『小さなうちに芽を摘む』、『大きくなりそうな事案であっても、保護者や警察や市役所などと連携を図り、粘り強く対応をする』ことを大切にしている。また、コミュニティ・スクールにおいては、登校指導や校外学習への付き添いなど依頼し、地域との関わりを大切に、人との関係を深め、規範意識を高めていきたいと考えている。 ・昨年度は、大きな公園に子どもが多く集まり、喧嘩したり、深夜徘徊したりする姿が見られたが、ここ最近では、小さな公園でもトラブルが見られる。登校時における中学生のヘルメットの着用に関しては、着用していない姿が気になるため、その都度、声をかけていきたい。 ・自治会への加入率が低い社会の中で、子どもたちを育てていくのは難しい。社会の変化によって、子どもたちは知らず知らずのうちに、『嫌なことは嫌と言え』『守りたくなければ守らなくてよい』という風潮が日本全体に広がってしまった。社会が変わって、その中で育つ子どもたちも変化してしまっている。 ・羽島市の子ども会の加入率は、5年前に比べて低下している。子ども会は社会性を身に付ける大切な会だと思っている。

	・青少年育成として、スマホの利用を含め、情報モラルについて、地域や家庭に啓発していく予定でいる。昔は、家庭で教育できていないことは、地域で補っていたが、自治会の加入率が低くなるとどうなっていくのか心配である。 ・義務教育を終えると、いろいろな機関による見守りがぐっと減ってしまう。個人情報の関係もあり、難しいと思うが、中学校卒業後の見守り体制が整っていくとよい。 ・昔は、近所同士が顔見知りだったから、子どもが危ないことをしていたら注意してくれた。今は、子ども会に入っていない子が多いから、誰だか分からず、声をかけることについて躊躇してしまう。ヘルメットを被らないことへの危険性をもっと感じ、大人と子どもの意識を変えていくことが大切なのでは。 ・自治会や子ども会への加入率が下がり、老人会もなくなっている。この状況からも地域が子どもに声をかける機会が減り、地域で子どもを見守ることが難しくなっているのでは。 ・学校・地域・家庭の関係をみると、家庭と地域のつながりに弱さが見られる。子どもから大人まで、地域の活動に積極的に参加できるとよい。そうすることが、子どもの育ちにつながる。 ・毎朝の見守りの中で、子どもたちの挨拶から元気もらっている。挨拶をしても返さないなど、挨拶ができない子が増えたように感じる。これは家庭の問題でもある。家庭を教育するのは大変だが、大人が子どもに声をかけて、地域で見守っていかれたらと思う。 ・子育て支援の1つに居場所づくりを行っている。大人の考えによって、子どもの環境も変わってくるが、大人にとっても地域の居場所が必要になる。それが子どもの環境づくりにつながっていく。
5 総括 (市長)	戦後の流れの中で、家族構成が変わり、子どもの手助けや見守りをしてくれる人がいなくなったり、年齢の異なった人とのコミュニケーションを図ることが減ったりするなど、日本の社会が大きく変わった。羽島市では、子育て世代の転入者が増えたり、高齢者も70歳までは働くことで老人クラブへの加入率も低下したりしている。 社会様式や生活様式が変わっているのに、今までと同じ活動をしようとしてもうまくいかない。原因を追究するとともに、アイデアを模索していくことが大切である。
6 閉会挨拶 (教育長)	社会が大きく変わり、大人も子どもの意識が大きく変わったと話題になった。社会も意識も今までのように戻らない。これらが変わったように、学校教育も社会教育も変えていく必要がある。 例を挙げると、不登校については、「多様な学び」の1つとして、学校以外の学びの場として、3つのサポートルームや仮想空間をつくったり、SSWによる支援をしたりするなど対応をしている。 また、コミュニティ・スクールにおいても、10年目を迎え、仕組みを変えようと動いている。具体的には、学校運営協議会のメンバーを精選し、地域学校協働活動をもっと充実させていくことで、子どもたちが主体者として活動できる場を増やしていく。 活動や体験は子どもたちにとってとても大切であり、その中で規範意識が芽生えていく。関係機関と連携を図りながら、子どもたちの規範意識を高め、健全育成にあたっていきたい。